

## 平成18年度学術創成研究費 中間評価結果

研究課題名	ナノ構造と活性アニオンを利用した透明酸化物の機能開拓	研究代表者名	細野 秀雄
-------	----------------------------	--------	-------

### 1 研究を推進する必要性について

推薦の趣旨に照らし、採択時以降の関連研究分野の学術動向を踏まえた上で引き続き研究を推進する必要性は高いか

- ア(×) 高い
- イ( ) やや高い
- ウ( ) やや低い
- エ( ) 低い

意見：  
採択時以降においても、当該分野の研究は例が少なく、この分野のトップにあるこの研究は今後も推進する必要性は高い

### 2 研究の進捗状況について

(1) 当初の研究目的に沿って、着実に研究が進展しているか

- ア(×) 予定以上に進展している
- イ( ) 概ね予定どおり進展している
- ウ( ) やや遅れている
- エ( ) 遅れている

意見：  
各種のアニオン内包C12A7の合成が進んでおり、大量合成にも成功していることは高く評価できる。

(2) 今後の研究推進上、問題となる点はないか

- ア( ) 研究経費
- イ( ) 設 備
- ウ( ) 組 織
- エ( ) そ の 他

意見：  
問題なし

### 3 これまでの研究成果について

当初の研究目的に照らして、現時点で期待された成果をあげているか (又はあげつつあるか)

- ア(×) 期待以上の成果をあげている
- イ( ) 概ね期待された成果をあげている
- ウ( ) 期待された成果をあげつつある
- エ( ) 期待された成果はあがっていない

意見：  
期待の大きい活性アニオンビーム(特にO<sub>2</sub><sup>-</sup>)の進展が遅いことにやや物足りなさを感じるものの、全体としては予想以上の成果を挙げている。

#### 4 研究組織について

研究者相互に有機的に連携が保たれ、活発な研究活動が展開される研究組織となっているか

ア (×) 有機的に連携が保たれている

イ ( ) あまり有機的に連携が保たれていない

ウ ( ) その他

意見：  
有機化学や大型結晶成長の人材を加えるなど、意欲的な取り組みが高く評価できる

#### 5 研究経費の使用状況について

研究経費は効率的・効果的に使用されているか

ア (×) 効率的・効果的に使用されている

イ ( ) あまり効率的・効果的に使用されていない

ウ ( ) その他

意見：

#### 6 研究課題の総合的な評価

該当欄		評価結果
×	A +	当初計画を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
	A	当初計画どおり順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	B	当初計画より研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C	当初計画より研究が遅れ、研究成果も見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である

総合的な評価意見：

ありふれた元素だけから成る物質で、新たなる電子材料としての可能性を示した非常にオリジナリティーの高い研究である。